

# 佑 啓

社会福祉法人 佑啓会 ふる里学会

〒 290-0265 市原市今富1110-1

☎ 0436-36-7611

発行者 里 見 吉 英

編集者 三 股 金 利

## 「佑啓」によせて

諸井 征力

梅雨があけ、空には巻層雲が白くかり、白南風(しらはえ)がそよそよと吹いて、いよいよ本格的な夏の到来であります。じわじわと暑さが、無言のうちに人生をあまり重く見ないようにと人の心に問いかけているようです。

この暑さは人を悪戯に行動に駆り立てず、悠々として情眼をむさぼるのに適しているのではないのでしょうか。

♪「卯の花の匂う垣根に、ホトトギス早も来なきて、忍び音もらす夏は来ぬ」と唱歌にあるように、我が家の向かいの山から、夏の到来を告げるホトトギスが「ホツチヨン、カケタカ、テツペン、カケタカ」と鳴いています。因みに忍び音はホトトギスの初音のこと

つまり古人は鳥たちの姿や声を聴くことによつて季節が判り、さらに一日の時間帯も知ることができたといえます。

さて、初めて、機関紙「佑啓」に投稿させていただくことになりました。日頃よりこの機関紙が屈くのを楽しみにしている一人です。毎回毎回すばらしい編集構成をされて、読む人誰もが好印象を持っているのではないかと思います。まさか私が書かされる番になるとは思いもよりませんでした。か

らっぱの頭にカツを入れながらつらつらと書かせていただきます。

いまさらいうまでもありませんが、ついにビッグバン!!大変革が始まりました。変化を好まない、日本に大変革の嵐が吹き荒れております。ビッグバンには「実力」しか通用しないかもしれないし、今までのような単純な「僥倖」は泡のように飛び散ってしまうでしょう。今、二十一世紀を目指して、行き詰まった社会体制や経済・教育・福祉などの制度を大幅に見直し、改革し、構築していくチャ

ンスが到来したと言つても過言ではないと思います。今、我々が一番関心を持っているのは「先行き不安、不況対策」ではないでしょうか。まずこれらが解決できない

れば先行きの見えない二十一世紀を迎えなければなりません。しかし、逆に言えば、様々な改革や条件の整備ができれば、明るい展望が開けるかもしれません。又、これまでのように、「おかみ」に頼る、あるいは政治や社会や学校に責任を転嫁するのではなく、あくまでも自己責任、自助努力の意識を皆が身につけることが一番必要なのではないでしょうか。

厚生省では三審議会が、障害保健福祉施策のあり方・社会福祉事

業法の改正。法務省の審議会では成年後見制度の改正などと動きは活発であります。また、社会福祉構造改革分科会においては「社会福祉基礎構造改革について(中間まとめ案)」が出されました。

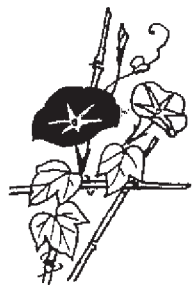
それによりまずと・・・「時代は大きな転換期を迎え、少子・高齢化や国際化の進展、低成長経済への移行を始めとする構造変化は戦後において最も激しいと我々が国の社会・経済構造全般に渡る変化を求められている。社会福祉制度についても、かつてのような限られた者の保護・救済にとどまらず、国民全体を対象として、その生活の安定を支える役割を果たしていくことが期待されている。こうした期待に応えていくためには社会・経済の構造変化に対し、必要なサービスを提供できるように社会福祉の新たな枠組を作り上げていく必要がある。今こそ社会福祉の基礎構造について抜本的な改革を遂行し、強化を図っていく必要がある」と改革の必要性の項目の中で述べられています。

いくらか制度を変えても、その制度を使う人間の意識が変えていたのではどうしようもありません。大切なことは我々一人ひとりが自立と自己責任への意識改革の精神をしつかりと胸に刻むことが必要なのではないでしょうか。

この文を書いている間にも「自民党大敗、橋本首相退陣」と大きく報道されています。まさに日本がこれからどのような方向に動い

ていくのか。「先行き不安」があらわよくば杞憂で終われと願っているところですよ。

(佑啓会 監事)



## 北の国から

堀金 兼太郎

人類が空を飛ぶという夢を叶えて間もなく百年。今では当り前のように、誰もが交通の手段として空を飛ぶ。私も先日、北海道に行ってきたが、眠りにつく間もなく旭川空港に着。余りの速さに、遠くに来たという実感が乏しいものの、気温の違いだけが事実を証明してくれました。

雨に阻むラベンダーの丘を、車は「北の国から」の舞台、富良野へ。施設長のお供として施設視察に同行させていただきましたが私にとつて北海道は二度目。初めての時も施設長と一緒に。北海道と施設長、私の中でイコールで結ばれつつある思考を車窓を流れる広大な景色で中和させることに専念していると、北の峯学園に到着。広大な敷地に利用者一四〇名と規模も大きい。しかし、その多さを感じさせないのは園外へ職場

実習に多くの方が出ていることとあります。その活動の中では今まで多くの方が社会へ飛び立っていったそうです。また、同敷地内には家族会の運営するワークショップがあり、ログハウスのレストランやコテージと設備や建物は殆ど職員の方々の手によるものとのこと。そういえば「北の国から」の中で田中邦衛も自分でログハウスを作っていたわけ。短絡的にその行爲が土地柄に起因するとは思われないが、私が千葉で自力で家を建てると言いつくすよりは、やはりこの地に相応しく思えます。などと考えていると、「いらつしやいませ」と声を掛けられました。ここで実習をしている利用者の方だそう、園外実習だけでなく、こ

こも利用者の一般社会や地域との交流の玄関口になっていました。施設は一般社会をその内で具現化することにより、いつしか内からバリアを作ってしまったとしてもいいかもしれません。私達職員は彼等の社会への玄関口、滑走路でなくては。滑走距離の長い人、短い人、停留している人、色々あつて良いと思います。常に目の前に空が開けているのなら。そしていつでも着陸を受け入れられる体制ができていれば。

宇宙旅行が懸賞で当たる世の中今更空を飛ぶことを恐ればかりはいられません。

(指導員)



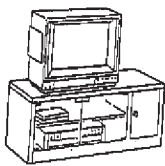
私と弟の付き合いも今年で二十年になります。二人だけの姉弟です。弟は昨年四月よりふる里学舎へ入所し、お世話になつています。私は時期を同じくして船橋の総合病院に看護婦として就職し、社会人一年生で頑張っています。

幼い頃の弟は多動で、私が記憶している限りでは、母は常に弟を探し、追いかけて回っていた様に思います。警察にお世話になったこともしばしばで、警察官の父を悩ましていました。本当にいろいろな出来事がありました。心ない人の冷たい視線や言葉に悔しい思いをしました。さまざまな思いはいっつくせません。が、そんな家族の心配や苦勞をよそに、弟はいつもマイペースでした。おデブでテレビが好き、ラジオ、新聞、本とたくさんさんの情報源に、得意なおしゃべりで楽しませてくれました。ふる里学舎では少々、度が過ぎて面倒をおかしているようですが・・・？

私は幼い頃から母に連れられ、弟の通っていたマザーズホーム、ことばの教室、養護学校等の行事にはいつも楽しみに参加してき

## 弟の存在

前田 富美子



(前田 和馬・姉)

ました。そのおかげで何の違和感もなく、体重八十六キロ、ヒゲの生えてきた二キビ顔の弟を未だにかわいいと思える。そして私の弟として自然に受け入れられている自分にホッとします。障害者でよかったと言うことは決してありませんが、弟の存在は私達家族にとつても大きく切り離しては考えられません。両親がそうであるように私も姉として、家族として、弟と共に生きて行くという姿勢を忘れず、今までより長い、これからの人生を大切に過ごしていきたいと思えます。

でも時々、「弟は幸せなのか？」と思うことがあります。そんなときはなぜか泣けてきて未だにその答えはみつからないままです。幼い頃あまり表情のなかった弟の笑顔を初めて見たときは何とも言えない暖かい気持ち、今でも忘れられません。私はそんな弟と共に生きていきます。

## 選んだ道

霜崎 深雪

ふる里学舎の職員となり、はや三月。毎日が発見や驚きの連続で一日の流れに乗り遅れずついていくことで精一杯だったように感じる。短大時代は介護を専攻していたこともあり、まわりの友達に殆どが老人関係の施設へ就職しているが、唯一私だけが知的障害者の施設への就職だった。高校二年生の夏、このふる里学舎を見学に来てボランティアを始めた。寮生と汗を流しながら作業を行い、とても新鮮で、寮生との関わり合いが楽しく思えた。高校時代は行事のときのみ、短大時代は週一日のペースで続けていたが、行くのが嫌だった日は決まらなかった。いつからかこのふる里学舎で働くことが私の夢となっていた。ボランティアをしていたからこそぶつかる壁もあると思つた。ボランティアから職員となり、何よりも責任という重い看板がついてくること、楽しいことだけじゃなく辛い苦しいことも待っていることは分かっていた。就職試験が間近になり、自分の本当にやりたいことは何なのか悩んだ時、どんな辛いこと苦しいことがあったとしても私の夢であつたふる里学舎で働きたいという気持ちを表現できたのなら、決してめげることなく、辛いことでも次へのバネにしていけると思つた。

そして今、夢が実現し、私の日々の生活はとても充実し、私なりに生き生きとした毎日が送れているように感じる。寮生と接している中で驚きや発見が殆どである私にとってはそれが嬉しさにつながっている。何気ないことだが、毎日寮生と挨拶を元氣良く笑顔で交わすだけで、どこからか一日の活力が湧いてくるように思う。寮生の元氣な挨拶と共に、毎日私の一日が始まっている。何はともあれ、選んだ道は正しかったと胸をはって言える程、今充実している。ただ一つボランティアをしていた時は寮生の作業中のある一部分のみしか見えていなかったと今は思う。現在職員となり、作業だけでなく日常生活も共にしている中で何よりも、誰からも、信頼される職員になつていきたい。ちよつと抜けていてドジな私だが、自分なりにふる里学舎で精一杯自己実現をしていきたい。

通所部へ配属となり、日々縁台作りに励んでいるが、その中で一つのこだわりを生み出してしまった。それは組み立てた縁台の面取りサンダーがけである。自分でも懲り過ぎと分かっているけどどうしても最後までツルツルに仕上げないと気が済まない私は、買う人にとっては良いかもしれないが、学舎にとっては生産性を悪くしているのではと不安になる。このこだわりを捨て切れないとしても、効率よくスピードを早めな

いといけないと常々思っている。これから先、色々な苦しい辛い壁にぶつかると思うが、どんどん苦しみ、悩みながら成長していきたい。短大を卒業し、まだまだ未熟者の私だが、温かい優しさを持つ強い人間になつていきたい。どうぞよろしくお願いします。

(指導員助手)

### 編集後記

幼い頃、ばあちゃんに連れられ、畑で砂遊びをすることが毎日の日課であつた私だが・・・困ったことに手伝いはしたことがなかった。



そんな私が現在農耕科を担当し、野菜を作っている。こんなことになるのなら、いろいろと教えてもらおうべきであつた。しかし後悔してももう遅い、ごちやごちや考える前に体を動かして汗を流そう。大豊作を夢見つつ・・・

佑啓三十号をお届けします。  
在原 寿